

# ロイヤル 亜りん酸カリMG (粉状液肥)

## 特長

本材は、亜リン酸カリウムと苦土、ゼオライトの混合物です。亜リン酸カリウムは通常のリン酸カリと異なり、分子量が小さいため速やかに作物に吸収され、少ない量でリン酸カリの肥効が表れます。本材を吸収した作物は超元気になり根量が増え、光合成能が高まるため、増収し品質が良くなります。また、耐病性も高まるため、病気に罹りにくくなります。

一方、ゼオライトには葉や茎、果皮の表面をカラカラに乾燥させ、病原菌の生育に不適な環境を作るため、病気の発生が軽減されます。但し、本材は農薬ではありませんので病気の発生時には農薬の使用をお勧めします。

本材は、低温・日照不足時の生育遅れの回復にも効果があります。



## 使用方法

対象作物	使用場面	使用方法と使用量	使用目的
馬鈴薯 葉菜類 果菜類	培土に混用	1m <sup>3</sup> の培土に 1~1.5kg 施用する。	健苗育成。
	トレイ処理	1000 倍液をジョウロで灌水するか又は噴霧機で散布する。	
根菜類 ネギ ニンニク 玉ねぎ	本圃での 土壌灌注	株元に 1000 倍液を 1 株当たり 0.5~1 ℓ 灌水する。	低温・日照不足による生育遅れの回復。 通常の生育環境下でも生育を促進し、増収と品質向上を図りたいとき。
		2~3kg/10a を適宜うすめ、灌水チューブで流す。	
豆類 水稻 小麦 花き	本圃での 葉面散布	500~1000 倍液を散布する。 (散布量が 100 ℓ / 10a 位の場合は 500 倍液を散布する。)	病気の発生を抑えたいとき。 (ゼオライトによる乾燥効果により、病気の発生が抑制されます。)
		ストレスに対する耐性を一層高めたい場合は 300 倍液を散布する。	
果樹類	本圃での 葉面散布	1000 倍液を散布する。 (水 500 ℓ に 0.5kg)	本材を処理すると、病気に対する自己防衛機能が高まるため、早めの処理をお勧めします。

## 作物別の詳しい使用方法と使用目的

- 果菜類：1000 倍液を 2～3 回散布。増収、品質向上。  
葉菜類、根菜類：500 倍液を 1～2 回散布。増収、品質向上。  
馬鈴薯：本培土後の防除に併せて 500 倍液を散布。粒形均一性、空洞化防止、増収。  
豆類：1～2 葉期と 5～7 葉期に主茎と株元へ 500 倍液を各 1 回散布。また着蕾期～登熟期に 1～2 回 500 倍液を散布。増収、品質向上。  
水稻：分けつ盛期と幼穂形成期～出穂期に各 1 回、500 倍液を散布。増収、品質向上。  
小麦：起生期又は幼穂形成期に 1 回、出穂期～成熟期に 1～2 回、500 倍液を散布。粒形均一性、着色向上、登熟促進、増収。  
果樹類：落花直後と肥大中期、着色初期に各 1 回の計 3 回 1000 倍液を散布。増収、品質向上。

## 成分 (%)

リン酸	カリウム	苦土	ゼオライト
15.0	8.0	8.7	42.0

## 注意事項

- 銅材系農薬及びボルドー液との混用又は近接散布は薬害の恐れがあるため避けて下さい。
- 本材の pH は 3.9～4.2 であるため、アルカリ性の農薬や資材とは混用しないで下さい。
- 石灰硫黄合剤と混合すると有毒ガスが発生する恐れがあり、危険ですから混用しないで下さい。
- 多量に処理すると組織が硬化しトマト等の茎が折れ易くなるため、使用量に注意して下さい。
- リンゴ品種のうち「つがる」は軟化しやすいため使用しないで下さい。(中晩生種のリンゴには使用可。)
- 散布液が目に入らないようにご注意下さい。また、作業後は手足・顔を石けんでよく洗って下さい。
- 幼児等の手の届く所に置かないで下さい。
- 開封したまま放置すると吸湿しますので、袋の口を密封して下さい。
- 直射日光を避け、冷涼乾燥した所で保管して下さい。
- みかんに使用する場合、高温時は日焼け果発生を助長する恐れがありますので注意して下さい。
- ぶどうに使用する場合、果粉の溶脱が起こるため処理は果粉形成～袋掛けまでの間は控え、それ以外の期間に使用して下さい。

## 包装形態

2kg ポリ袋入り ×10 袋 / ケース



**ロイヤル インダストリーズ株式会社**

〒201-0003 東京都狛江市和泉本町1-15-19  
TEL 03(3489)1408 FAX 03(3489)9308

2012.06